

メールレター (35)

白く雪化粧をした、モントリオールの古都の街並みが、広すぎるほどの空の下に広がっています。規制があって、摩天楼のような高層ビルがないせいか、空がとて大きいのです。この時期は日の出は7時半、日の入りは午後4時半と、日照時間は9時間。ちょっとお出かけと書いても夜遊びになってしまいます。明るい内に行動しようと思うと大忙しです。パリ育ちのドリトル先生も東京育ちのマダム田中も、日の光の乏しさに、モントリオール生活を大いに後悔する瞬間でもあります。

2019年(令和1年))はあっという間に終わってしまいそうです。師走の慌ただしさが、のんびりとした日々の暮らしにも感じられるようになりました。この街では、師は走らず、クライマックスのクリスマスに向けて司祭が走り回っています。宗教性が庶民にほぼなくなったとはいえ、やはり、クリスマスは厳かにお祝いする宗教行事なのです。この街には100の鐘楼があると言われるほど教会が多く、一時は勢力と影響力を持ち、子供達の教育も司祭やシスターが仕切っていたようです。今は、クリスマスを祝いながら、家族で集まり、ご馳走を食べ、贈り物をする楽しい習慣になっています。

時の流れの中で、有名な観光客で賑わう教会を除けば、教会も閑古鳥が鳴くようになり、生計の立たなくなった教会は、身売りをし、コンドミニウムになった所もあります。近年は、夜はライトアップされる鐘楼を見事に取り入れた、モダン建築の総合病院も出来上がりました。

以前モントロワイヤルの麓にある修道院を改築したコンドミニウムに住む友人を訪ねたことがあります。ロフトの素晴らしいアパートでした。

一緒に来た友人は

「ねえ、貴方、ユダヤ人なのに、カトリックの修道院に住む、住み心地ってどんなもの？」
ときつい一言。彼女は眉一つも動かさず、

「キリストも、もともとはユダヤ人だから良いんじゃない？」

こう言う手もあったのですね。

街のあちこちで、クリスマスツリーを一斉に売り出し始めました。どこまでも見渡す限り、大小様々なクリスマスツリーが並んでいます。大変な人出です。そのついでにマルシェで美味しい食材のお買い物です。旬のシュークルート(ザウツクラフト)、それに合わせてソーセージ、スモークした豚のコートレット(テイーボーンでしょうか)、食後のチーズ、忘れずに焼きたてのバゲットも買い込みます。フランスの日曜日のマルシェのお買い物のようなのです。見れば、顧客の80パーセントはフランス人のようです。フランスでは、日曜日の食材の買い物は、家族全員で美味しいお昼ご飯を食べるための大事な家庭の習慣です。エンゲルス係数が世界一高いフランス人の食生活はこんな風に成り立っているようです。ハンバーガー、ピザ、ホットドッグ、プーチン(フ

ライドポテトの上にブラウンソースをかけチーズをのせたもの。バター半ポンド分のカロリーに匹敵)がメインのケベックの食生活とはだいぶ違うようです。

我が家も、子供達の家庭を合わせると4家族に分散したため、それぞれクリスマスツリーの飾り方も違います。(義理の)長男のツリーは天を突くほど高く、一重にすごーいと感嘆の声が出るほど立派で華やかな、ゴールドを中心にした飾り付けです。次男は、ど田舎に住む利点でしょうか、更に遠くの森に出かけ、チェーンソーで切り出して来るそうです。ブルーがかった香りの高いモミの木です。クリスマスの間点滅する光の中でこの芳香が放たれます。まさに自然派の彼にはふさわしいクリスマスツリーです。娘は「やっと今年は本物のツリーを買ったわ」と嬉しそうに連絡が来ました。クリスマスが終り、新年のお祝いも終わると、粗大ゴミとしてこのツリーは回収されていきます。

ちなみに、華やかに宝石で飾り立てた女性を
「おークリスマスツリーのよう！、」
と言います。

今年もお世話になりました。新年が良い年でありますよう祈っております。